

平成30年度（29年度決算分）高松市事務事業評価表 【事中・事後評価】

総合計画体系	まちづくりの目標	安全で安心して暮らし続けられるまち	評価担当	局名	市民政策局
	政策	安全で安心して暮らせる社会環境の形成		課(室)名	くらし安全安心課
	施策	交通安全対策の充実		電話番号	087-839-2555
	基本事業	交通安全教育・啓発の推進		事業実施主体	市
	事務事業	交通安全教育等推進事業		事業期間	平成28年度～平成35年度

【事業全体概要】

事業の概要	幼稚園、保育所、こども園、小・中学校等において、歩行教室や自転車安全運転教室などの交通安全教室を開催するほか、高齢者を対象とした反射材教室、高齢者教室などの交通安全教室を開催する。また、交通安全意識の向上を図るため、関係機関・団体等と連携して、交通安全運動の展開や街頭キャンペーンなど交通安全の啓発活動を実施する。		
30年度概要	交通指導員、事務員人件費 交通安全都市推進協議会補助金、交通安全母の会連絡協議会 ほか2団体補助金 その他（幼、保、こ、小・中交通安全教室、高齢者等交通安全教室の開催など）		
重点取組事業	市長マニフェスト	事務事業の類型	ソフト事業（法律による実施義務無）

【事業の目的】

対象（何を）	幼稚園、保育所、こども園、小・中学校の幼児、児童、生徒 地域の交通安全指導者 老人クラブ会員等
意図（どのような状態にしたいか）	幼児、児童、生徒に交通安全の基礎知識を身に付けてもらう。 地域の交通安全指導者に交通安全や街頭指導の知識を習得してもらい、指導者を通じて地域へ波及させる。 高齢者に交通安全の知識を身に付けてもらう。

【事業の活動】

活動指標名（具体的にどのような活動をしたか）	単位	H27	H28	H29	H30	中期目標 H30
幼稚園、保育所、小学校、中学校での交通安全教室の開催数	回		361	359	380	380
高齢者交通安全教室等の開催数	回		975	1,191	1,120	1,120

【事業の成果】

成果指標	成果指標名（どのような成果が得られたか）	単位	種別	H27	H28	H29	H30	中期目標 H30
	幼稚園、保育所、小学校、中学校交通安全教室参加者数	人	目標値		36,000	36,000	36,000	36,000
			実績値		34,204	34,038		
	成果指標の達成度（目標に対してどれだけ達成できたか） 目標値の約9割だったものの、概ね達成できた。							(達成度) 94.6%
								33点
	高齢者交通安全教室等参加者数	人	目標値		4,600	4,800	5,000	5,000
			実績値		4,073	4,428		
	成果指標の達成度（目標に対してどれだけ達成できたか） 目標値の約9割だったものの、概ね達成できた。							(達成度) 92.3%
								32点

【コストの推移】

指標名	単位	平成27年度（決算）	平成28年度（決算）	平成29年度（決算）	平成30年度（予算）
トータルコスト	[千円]	44,802	45,785	44,929	43,204
（事業費）	[千円]	25,609	26,157	25,961	24,236
（職員人件費）	[千円]	19,193	19,628	18,968	18,968

【評価】

評価ランク（A～D）	A	今後の方向性（拡充、継続、改善継続、縮小、廃止）	継続
------------	---	--------------------------	----

【昨年度の実施状況と課題】（評価ランクの結果に対する理由などを分析して記入）

各世代に対する交通安全教室では、直近の交通環境や課題などに対応できる内容となるように配慮して実施した。一方、交通安全教室の対象となりにくい大学生や成人の自転車乗車マナーの苦情なども寄せられている現状を踏まえ、より効果的な実施方法を今後の検討課題とする。

【今後の事業方針】（評価ランクの結果を受けて、上記課題に向けた今後の方針を具体的に記入）

交通安全教室の実施内容については、体験型学習を増やすなど、参加した市民が理解、実践しやすい方法を工夫する。

平成30年度（29年度決算分）高松市事務事業評価表 【事中・事後評価】

総合計画体系	まちづくりの目標	安全で安心して暮らし続けられるまち	評価担当	局名	市民政策局
	政策	安全で安心して暮らせる社会環境の形成		課(室)名	くらし安全安心課
	施策	交通安全対策の充実		電話番号	087-839-2555
	基本事業	交通安全教育・啓発の推進		事業実施主体	市
	事務事業	交通安全啓発推進事業		事業期間	平成28年度～平成35年度

【事業全体概要】

事業の概要	交通安全フェアの開催や交通事故ゼロを目指す日一斉キャンペーンなど、市内統一街頭キャンペーンを開催することで、交通安全に対する意識向上を図り、交通事故防止を促進する。		
30年度概要	交通安全フェア会場設営委託料 キャンペーン用資材購入費 啓発塔管理費 その他（交通安全フェアの開催、交通安全キャンペーンの実施など）		
重点取組事業	市長マニフェスト	事務事業の類型	ソフト事業（法律による実施義務無）

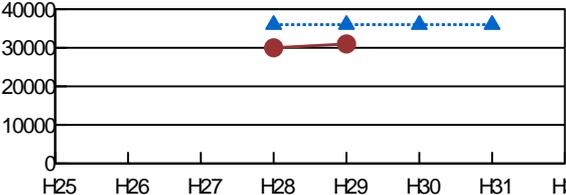
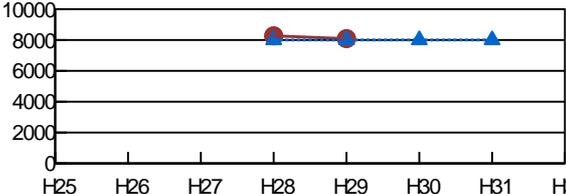
【事業の目的】

対象（何を）	市民全体
意図（どのような状態にしたいか）	交通安全意識や交通ルール、マナーを守る意識を広める。

【事業の活動】

活動指標名（具体的にどのような活動をしたか）	単位	H27	H28	H29	H30	中期目標 H30
交通安全フェア開催日数	日		2	2	2	2
統一街頭キャンペーン実施回数	回		3	3	3	3

【事業の成果】

成果指標	成果指標名（どのような成果が得られたか）	単位	種別	H27	H28	H29	H30	中期目標 H30
成果指標	交通安全フェア参加者数	人	目標値		36,000	36,000	36,000	36,000
			実績値		30,000	31,000		
成果指標	成果指標の達成度（目標に対してどれだけ達成できたか） 昨年度より1,000人増加したが、開催当日の天候の影響もあり、目標値の9割弱に留まった。  (目標達成度)					(達成度) 86.1%	30点	
	統一街頭キャンペーン参加者数	人	目標値		8,000	8,000	8,000	8,000
			実績値		8,272	8,088		
成果指標	成果指標の達成度（目標に対してどれだけ達成できたか） 目標値を上回る参加者数となった。  (目標達成度)					(達成度) 101.1%	35点	

【コストの推移】

指標名	単位	平成27年度（決算）	平成28年度（決算）	平成29年度（決算）	平成30年度（予算）
トータルコスト	[円]	12,515	12,720	12,467	12,409
（事業費）	[円]	1,767	1,729	1,845	1,787
（職員人件費）	[円]	10,748	10,991	10,622	10,622

【評価】

評価ランク（A～D）	A	今後の方向性（拡充、継続、改善継続、縮小、廃止）	継続
【昨年度の実施状況と課題】（評価ランクの結果に対する理由などを分析して記入） 交通安全街頭キャンペーンの実施方法については、ボランティアで参加する者の負担を増やさず、より実効力があるような方法を検討する余地がある。			
【今後の事業方針】（評価ランクの結果を受けて、上記課題に向けた今後の方針を具体的に記入） 交通安全フェア及び交通安全キャンペーンは、広く市民に認知され参加者も多く、交通安全事業としての意義も大きいことから、より一層効果的な交通安全啓発の向上を図れるよう事業内容を工夫しながら実施する。			

平成 30年度（29年度決算分）高松市事務事業評価表 【事中・事後評価】

総合計画体系	まちづくりの目標	安全で安心して暮らし続けられるまち	評価担当	局名	市民政策局
	政策	安全で安心して暮らせる社会環境の形成		課(室)名	くらし安全安心課
	施策	交通安全対策の充実		電話番号	087-839-2555
	基本事業	交通安全教育・啓発の推進		事業実施主体	市
	事務事業	交通事故相談事業		事業期間	平成 28年度～平成 35年度

【事業全体概要】

事業の概要	交通事故で悩みを持った市民が、気軽に相談できる無料相談窓口を設置し、専門的知識を持った相談員がアドバイスを行い、市民の悩み解決に寄与し、安心なまちづくりを推進する。		
30年度概要	相談員 1 人の年間人件費、参考図書購入経費		
重点取組事業	市長マニフェスト	事務事業の類型	ソフト事業（法律による実施義務無）

【事業の目的】

対象（何を）	交通事故の関係者
意図（どのような状態にしたいか）	交通事故による悩みやトラブルに適切なアドバイスを行い、問題解決の手助けをする。

【事業の活動】

活動指標名（具体的にどのような活動をしたか）	単位	H27	H28	H29	H30	中期目標 H30
交通事故相談件数	件		381	36	300	300

【事業の成果】

成果指標	成果指標名（どのような成果が得られたか）	単位	種別	H27	H28	H29	H30	中期目標 H30
	問題解決支援件数	件	目標値		400	300	300	300
			実績値		381	36		
	成果指標の達成度（目標に対してどれだけ達成できたか） 週 1 回の相談に変更したこと、民間の保険会社や他団体等の相談機関の充実が影響して、相談件数が激減した。 (目標達成度)							(達成度) 12.0%
								4点
	成果指標名（どのような成果が得られたか）	単位	種別	H27	H28	H29	H30	中期目標 H30
	成果指標の達成度（目標に対してどれだけ達成できたか） (目標達成度)							(達成度)

【コストの推移】

指標名	単位	平成 27年度（決算）	平成 28年度（決算）	平成 29年度（決算）	平成 30年度（予算）
トータルコスト	[円]	3,218	3,330	1,068	1,162
（事業費）	[円]	2,450	2,545	309	403
（職員人件費）	[円]	768	785	759	759

【評価】

評価ランク（A～D）	D	今後の方向性（拡充、継続、改善継続、縮小、廃止）	休止
【昨年度の実施状況と課題】（評価ランクの結果に対する理由などを分析して記入）			
利用者の利便性を考慮して 1 階に窓口を移設したほか、各種交通安全関係の行事や会議において周知・広報するなど相談窓口の認知度の向上に努めたが、利用者数は激減しているため、休止又は廃止を検討する必要がある。			
【今後の事業方針】（評価ランクの結果を受けて、上記課題に向けた今後の方針を具体的に記入）			
30 年度当初から、相談員が確保できず休止しているが、今後、相談員の採用や相談ニーズの状況などを踏まえ、休止の継続及び廃止に向けた検討が必要である。			

平成30年度（29年度決算分）高松市事務事業評価表 【事中・事後評価】

総合計画体系	まちづくりの目標	安全で安心して暮らし続けられるまち	評価担当	局名	市民政策局
	政策	安全で安心して暮らせる社会環境の形成		課(室)名	くらし安全安心課
	施策	交通安全対策の充実		電話番号	087-839-2555
	基本事業	交通安全教育・啓発の推進		事業実施主体	市
	事務事業	高齢者交通安全啓発推進事業		事業期間	平成28年度～平成35年度

【事業全体概要】

事業の概要	高齢者に、加齢による身体能力の低下の自覚と危険予測の考え方を身に付けてもらえるよう、参加体験型の交通安全教育の普及に努めるとともに、高齢者の自主的な運転免許返納の促進策として、ICカード乗車券を交付することにより、高齢者が関係する交通事故の減少を図る。				
30年度概要	高齢者運転免許返納促進事業 シニアイルカカード、JRIココカード（1万円×1,230件）など 高齢者交通安全教室等の開催 交通安全高齢者自転車大会の開催 シルバードライバーズスクールの開催				
重点取組事業	特別重点	市長マニフェスト	6-	事務事業の類型	ソフト事業（法律による実施義務有）

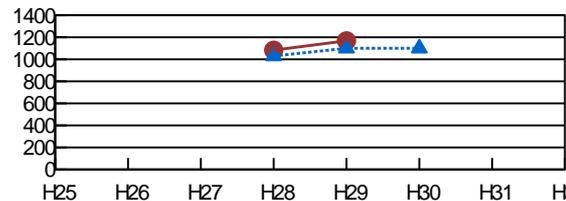
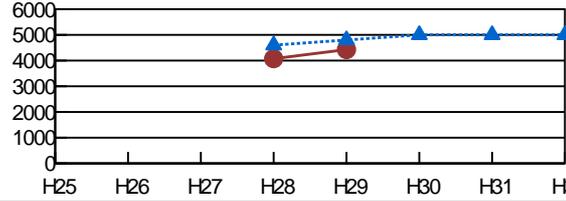
【事業の目的】

対象（何を）	高松市の高齢者（65歳以上）
意図（どのような状態にしたいか）	運転免許証の自主返納により、高齢者が当事者となる交通事故が減少する。 体験型の交通教室の実施により、高齢者自身が加齢による身体能力の低下を自覚し、危険予測の考え方の普及や交通安全知識の向上が図られる。

【事業の活動】

活動指標名（具体的にどのような活動をしたか）	単位	H27	H28	H29	H30	中期目標 H30
高齢者交通安全教室等の開催数	回		975	1,191	1,120	1,120

【事業の成果】

成果指標	成果指標名（どのような成果が得られたか）	単位	種別	H27	H28	H29	H30	中期目標 H30
成果指標	I Cカード乗車券交付申請者数	人	目標値		1,030	1,100	1,100	1,100
	実績値			1,083	1,168			
成果指標	成果指標の達成度（目標に対してどれだけ達成できたか） 免許証の自主返納者が増加したため、目標値を上回る申請者数となった。 (目標達成度)							(達成度) 106.2% 35点
	成果指標名（どのような成果が得られたか） 高齢者交通安全教室等参加者数	人	目標値		4,600	4,800	5,000	5,000
実績値				4,073	4,428			
成果指標	成果指標の達成度（目標に対してどれだけ達成できたか） 目標値の約9割だったものの、概ね達成できた。 (目標達成度)							(達成度) 92.3% 32点

【コストの推移】

指標名	単位	平成27年度（決算）	平成28年度（決算）	平成29年度（決算）	平成30年度（予算）
トータルコスト	[円]	14,736	13,850	16,655	16,501
（事業費）	[円]	10,897	9,924	12,861	12,707
（職員人件費）	[円]	3,839	3,926	3,794	3,794

【評価】

評価ランク（A～D）	A	今後の方向性（拡充、継続、改善継続、縮小、廃止）	継続
------------	----------	--------------------------	-----------

【昨年度の実施状況と課題】（評価ランクの結果に対する理由などを分析して記入）

高齢者向けの交通安全教室を拡充するため、高齢者居場所づくり事業や地域包括支援センターと連携して、多くの高齢者を対象に教室を開催できるような方法や体制を検討する必要がある。

【今後の事業方針】（評価ランクの結果を受けて、上記課題に向けた今後の方針を具体的に記入）

更なる高齢者の運転免許証の自主返納を促すため、土・日・祝日にICカード乗車券の交付手続きを行えるように、市民サービスセンターでの取扱いを開始する。